

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1997. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 158

日本野鳥の会埼玉県支部

身のまわりの自然を見つめよう！

あなたの住んでいるまわりにもささやかな自然はあります。ここでは樹々の葉の1年のうつり変わり、野草や雑草の花、身近な虫、家々のまわりを訪れる鳥などを取り上げ、身のまわりの自然についてあらためて見るヒントを、参考となるフィールド図鑑を示しまとめました。

1. 樹々の1年の葉の変化を見よう！

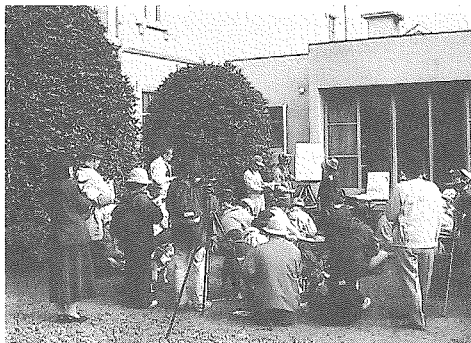
ケヤキやサクラなどの落葉広葉樹は、春先に芽吹き、5月初旬までに開葉し、梅雨明けあたりから緑の濃さを増し、夏の太陽に焼かれ、虫食いなどでぼろぼろになり、10月位から紅葉し晩秋には葉を落とします。このとき来春の葉になる冬芽をしっかりと付けています。

庭木や街路樹、寺や神社の林などにある落葉広葉樹の葉は、このように1年を目まぐるしく変化します。通学や通勤の行き帰り、毎日通るかかる樹々を見ていると、1年の葉の変化が見えてきます。特別な道具など何もありません。

2. 野草や雑草の花を見よう！

庭や道ばた、空地、校庭や公園に普段、草むしりするような野草や雑草が生えています。

春先には、まずスギナが生え、次にカントウタンポポの黄色の花が咲き、梅雨時からツユクサの青い花やドクダミの白い花が、黄色の小さなカタバミの花が咲き始めます。夏に入ると、まずピンクのコヒルガオが、黄のノカンゾウが、そして秋の気配が感じられる頃になると黄のメマツヨイグサが、9月になるとヒガンバナの鮮やかな赤い花が、10月に入るとセイタカアワダチソウが、そしてススキの穂が風になびきます。



(三室地区定例探鳥会)

私たちの身のまわりの野草や雑草は、カントウタンポポやドクダミのような従来からあるものと、セイヨウタンポポやヒガンバナ、セイタカアワダチソウのような海を渡って来た外来種の両方があります。野草や雑草と言って目のかたきにしないで花を眺めてみませんか。

畔上能力 1987 野草ウォッチング DO-LIFE GUIDE アウトドア・シリーズ 125 日本交通公社出版事業局 東京

廣田伸七 1996 ミニ雑草図鑑 一雑草の見分けかた― 全国農村教育協会 東京

3. 身近な群落を見よう！

私たちが住んでいるまわりにもよく見ると

- (1) 畑や空地
- (2) 水田や水辺
- (3) 道ばたや土手
- (4) やぶのふち

などの群落があります。それぞれで見られる草は、だぶっている事もありますが微妙にちがっています(表1)。

身近な群落で見られる草の中には、外来種が多く含まれることが特長です。特に道路、鉄道沿いには普通の図鑑に載っていないようなものが見つかります。セイタカアワダチソウのように競争する相手が少ないため、草原一面ひとつの種におおわれてしまう場合もあります。

あなたの住んでいる近くの上あげた4つの群落で、どのような植物が仲間を作っているか観察してみましょう。

奥田重俊、武田良平 1985 人里の植物フィールド図鑑 植物1 東海大学出版会 東京

4. 身近な虫を調べよう！

私たちの一番身近な虫は、春から秋にかけて舞うチョウと、夏から秋の始めまで鳴くセミやコオロギなどの秋の虫でしょう。

関東の住宅地で普通に見られるのは、まずツバメシジミ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ナミアゲ

ハ、カラスアゲハなどのチョウです。8月になるとアブラゼミ、ニイニゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシなどのセミの声が聞こえます。そして8月中旬から、エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、スズムシ、マツムシ、カントウ、アオマツムシ、マダラスズ、ケラ、クサヒバリなどのコオロギの仲間、キリギリス、ウマオイなどのキリギリスの仲間などの秋鳴く虫の声が耳に入ってきます。

草原や樹木など植物が決まれば集まって来る虫が決まります。そのときは(中山1976)を見れば名前がわかるでしょう。

中山周平 1976 庭・畑の昆虫—昆虫I—自然観察と生態シリーズ1 小学館 東京
日高敏隆、藤井恒、海野和男、今森光彦
1984 フィールド図鑑チョウ 東海大学出版会 東京
朝比奈正二郎他 1977 昆虫 旺文社学習図鑑 携帯版 旺文社 東京

5. 家々のまわりの鳥を見よう！

私たちの住む関東では、鳥の繁殖期は5月の10日位から7月10日位まで、そして越冬期は12月初旬から1月末までです。それ以外の期間は春及び秋の渡りの季節になります。

住宅地で普通、留鳥として見られるのはキジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シジュウカラ、ムクドリ、スズメ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラスなど、夏鳥はイワツバメ、コゲラと種類が少なく、ジョウ

表1 身近な群落で見られる草

群 落	お も な 草
畑 や 空 地	カタバミ、エノコログサ、ハルジオン*、ヒメジョオン*、イヌタデ、アキノノゲシ、コウヅリナ
水 田 や 水 辺	スズメノテッポウ、イ、ウキクサ、オオジシバリ、ミゾソバ
道ばたや土手	オオバコ、ヨモギ、ニワゼキショウ*、スギナ、メマツヨイグサ*、セイヨウタンポポ*、カントウタンポポ、シロツメクサ*、ムラサキツメクサ*、ヤブカンゾウ、ノカンゾウ、ツユクサ、セイトカアワダチソウ*
やぶのふち	ヘビイチゴ、ホタルブクロ、ドクダミ、ヒルガオ、ヒガンバナ*、ダイコンソウ、カラスウリ

(注) *は外来種

ビタキ、ツグミ、ウグイス、メジロ、アオジなどが越冬します。

人々が行き来する住宅地は、厳しい条件が要求される繁殖地としては適さず、多くの鳥が餌さえ得られればよい越冬地としてのみ利用している様です。

上述以外の鳥が見られれば、それだけよい環境です。あなたの住まわれている所はどの位の鳥が見られるでしょうか。

日本野鳥の会埼玉県支部 1994 気ままにバードウォッチング —埼玉基本の鳥66種と探鳥地15選— 幹書房 浦和
竹下信雄 1985 まち中のバードウォッチング 自然観察シリーズ23 生態編 小学館 東京

おわりに

やや湿った場所に生えるハッカは、九州から北海道の水田や水路わきなどの草地から、釧路湿原のような大自然が残されているところまで広く分布しています。このように身近なところから大自然のまん中まで広く生きている植物や動物は数多く見られます。

自然は私たちの身のまわりにも、原生林が生い繁るようなところにも、地球上ならどこでもあります。身のまわりの自然を見つめ直すことにより、自然の大きさと深さを感じることが出来ます。あなたの住んでいるまわりの自然を見つめてみませんか。

小荷田行男 (浦和市)

諫早湾の堤防締め切りに抗議

日本野鳥の会埼玉県支部役員会

長崎県諫早市の諫早湾において、干拓のための潮受堤防の締め切りが、農林水産省の手で4月14日に強行された衝撃的なニュースが伝えられました。その結果、多くの干潟の生き物たちが、今ゆるやかな死を迎えつつあります。

諫早湾は我が国最大規模の干潟であり、環境庁(1991)「日本の絶滅のおそれのある野生生物」に、絶滅危惧種とされているコウノトリ、危急種とされているツクシガモ、マナヅル、サカツラガン、ヘラシギ、希少種とされているクロツラヘラサギなどが生息している国際的にも重要な場所です。野鳥の会は、長崎県支部の地域活動を中心に、堤防締め切りに反対してきました。

今回の締め切り強行に対して、諫早干潟緊急救済本部(854 諫早市小野町1100-13、山下弘文方、日本湿地ネットワーク、TEL FAX 0957-23-3740)と同東京事務所(102 千代田区九段南4-7-22-304西田研志法律事務所内、TEL 03-3238-1951、FAX 03-3264-3272)が自然保護団体間の協力態勢で立ち上がり、水門の開放と生態系の救済を目指して、緊急活動を始めました。

野鳥の会本部常務会でもその活動に連携することが確認されたのを受けて、当支部でも5月10日に開催された役員会議で協議した結果、支部として堤防締め切りに反対していくことを決議し、同日中に、次の通りのFAXを農林水産大臣と長崎県知事宛てに発信しました。

[本文]「日本野鳥の会埼玉県支部は、1984年5月に発足して以来13年間自然保護活動を継続し、現在会員数2,800名を擁する団体です。本日開催された当支部役員会で協議した

結果、日本野鳥の会埼玉県支部として、4月14日に行われた諫早湾干拓潮受堤防の締め切りに抗議することを決議しました。貴重な野鳥をはじめとする膨大な数の生き物の生命を育ててきた有明海の干潟の自然環境を破壊することは、全地球人類にとってのひとつの大きな財産を失うことです。今まさに死を迎えつつある生き物たちをすくうため、手遅れにならないうちに水門を開けて、潮の出入りを回復されることを要望します。」

引き続き、署名活動も行います。

O B I C (油汚染海鳥被害委員会)からは、次のとおりの礼状が届きました。

[本文]「この度は、日本野鳥の会O B I C募金にご寄付いただき、誠にありがとうございました。

1月2日の重油流失事故以来、O B I Cでは、調査の呼びかけとデータの集約、被災した鳥のリハビリ活動への支援、米国より油汚染対策の専門家招致と環境庁への提言作り、事故対策のマニュアルビデオ作り、分析のための死体の保管と登録作業、などの活動を行ってきました。

たくさんのボランティアの方々の尽力により、各地の海面に漂っていた油はほとんど回収され、漂着する海鳥の数も減ってきました。

今後は、環境庁や他団体と協力して、得られたデータを分析し、事故の生態系への影響を把握して、環境回復のための資料を残す活動を行っていきます。

ここに至るまでのご支援ご協力で心より感謝申し上げます。」

バードソン報告

■秋ヶ瀬で開始宣言■

5月10日(日)午前5時前、「リブラン・フレッシュしらこぼと」チームは浦和市秋ヶ瀬公園のピクニックの森駐車場に集合。早朝にもかかわらず6名のサポーターが顔を見せてくれた。心強い。

午前5時にバードソン開始を宣言。カワラヒワ・オオヨシキリ・セッカ・カッコウと、次々種名をあげてメンバー全員の確認をとって記録する。

新堂克浩サポーターが先行してトランシーバー交信。キビタキが出ていると報告が入る。新緑の樹間に黄色が美しい。

大久保農耕地と子供の森を合わせて、32種確認。オオルリはのがしたけれど、エゾムシクイが思わぬ1種となった。

移動開始して、途中浦和市内で営業中のツミを確認。これも思わぬ1種追加。

■東北道で渡良瀬へ■

コンビニで朝食を買い込み、車中で食べながら疾走。大利根町で車中からシラコバトを確認。チーム名の鳥も無事クリア。

渡良瀬で内田孝男サポーターと合流して、チョウゲンボウ・コアジサシ・コヨシキリ・トラフズクなど、13種を追加確認。山階鳥類研究所のバンディング調査にも遭遇した。

■県北の田園地帯を走って大麻生へ■

予定時間より遅れて大麻生明戸堰に到着。探鳥会参加者たちに拍手で出迎えられて、少々照れくさい。

ここでの目玉、ササゴイなど5種を追加。あわただしく出発する背中に、和田康男リーダーの「では、これから鳥合せを」の声。鳥合せを残して待っていてくれたことに感謝しながら先を急ぐ。

途中荒川河原でカワセミ・イカルチドリを確認して、この時点で合計54種。

■広域農道経由で石戸宿へ■

途中遅い昼食をとって着いた石戸宿には、永野安彦・京子ご夫妻らが待っていてくれたが、過日の強風の影響か、鳥たちの姿が少ない。まだ出ていないヤマガラを中心に探したが、見つからない。



時間がない。残念ながら別れの挨拶を交わした丁度その時、頭上にヤマガラ出現。思わず一同感激の声を上げる。

■最終コース三室へ■

遅れぎみの時間を取り戻すべく、混雑が予想される幹線を避けてひた走る。橋口ナビゲーターと兼元ドライバーの活躍で、遅れを短縮して三室に到着。途中でイワツバメ1種追加。

楠見邦博サポーターらと共に、まだ出ていないイソシギ・タカブシギ・ツグミを探して、芝川沿いのポイントを次々と移動する。楠見サポーターがあらかじめ探していた時にはいなかったイソシギが、チームメンバーが到着すると、早速岸辺に舞い降りた。

初夏の陽はまだ明るく高いのに、非情にも時間だけが過ぎていく。

ついに午後5時。「バードソン終了」の宣言。「お疲れ様でした」との声が飛びかう。

合計57種。サポートリーダーたちの予想には1種及ばなかった。長い様で一瞬に過ぎ去った12時間!!

浦和市立郷土博物館で多くの人たちの出迎えを受けて、一緒に記念撮影の後、福井恒人事業部長のセリで持ち寄り品のオークション。売上金は2万4,200円にのぼり、ありがたくそのままバードソン募金に。

募金をあらかじめお申し込みいただいた皆様には、後日バードソン事務局から募金払い込みのお願いが届きます。どうかよろしくお願いします。

皆様のご支援に心からお礼申し上げます。

(執筆：工藤洋三+編集部)

バードソン確認種

カイツブリ カワウ ゴイサギ ササゴイ
アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ
アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガ
モ トビ オオタカ ツミ チョウゲンボウ
コジュケイ キジ バン コチドリ イカ
ルチドル ムナグロ ハマシギ キアシシギ
イソシギ タシギ コアジサシ シラコバ
ト キジバト カッコウ トラフズク カワ
セミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキ
リ エゾムシクイ セッカ キビタキ ヤマ
ガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カ
ワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (57種)

私の探鳥会

芳川リリィ (岩槻市)

初めて探鳥会なるものに参加したのは、ち
ょうど1年前、さきたま古墳公園でした。

そうそう、まず私の自己紹介を……。私の
名前はリリィ。柴犬雌4歳。『しらこぼと』
前号の「野鳥情報」欄を見て、首をかしげた
方もいらっしゃるのではないのでしょうか。い
つもご主人のお供で野山に探険に行くのが大

白頭鷲の英名講座・番外編

米空軍に「猛禽」登場

ロイター通信によれば、米空軍は、次期主
力戦闘機として「猛禽」を採用することに決
定したとのこと。

すでにお馴染みのF-15イーグルの後継
機種として、F-22の生産型1号機が、マ
リエッタのロッキード・マーチン社工場で初
公開された。F-22はステルス機で双発、
最高速度はマッハ2以上。愛称はなんと「ラ
プター (Raptor=猛禽)」。

米空軍は、航空機と同様に空を飛ぶもの
としての鳥、特に猛禽類への憧れと敬愛の念を
持つためか、愛称に盛んに猛禽が使われる。

F-15が、イーグル (Eagle=ワシ)

F-16が、ファルコン

(Falcon=ハヤブサ)

好きな犬です。

1年前のあの日も、いつもの山歩きのリュ
ックを着け、神妙な顔でおっかなびっくり、
名札をつけて参加したのでした。

初めのうちは、奇異な目、不信そうな顔、
面白がって、鳥そっちのけで私をいじりまわ
す子供など……どうなるのか心配でした。

でも、歩き進むにつれて、諸先輩の親切な
ご指導で、自分たちだけで歩く時の3倍は見
つけることが出来ました。それまで見たこと
がなかったオオタカやビンズイも見えまし
た。最後の鳥合わせでは、28種も見たとのこ
と。目が沢山あるということは、すごいこと
だと思いました。種類の確認も正確になるし
ね。リーダーの方々の知識の豊富さにも、ご
主人共々、感服してしまいました。

そんな訳でこの1年、いくつかの探鳥会に
参加させていただきました。これからも会に
参加しながら、鳥だけに片寄ることなく、郷
土の歴史や自然から、犬は犬なりに色々と学
んで行きたいなあ……。もちろん犬であって
も、鳥や動物、虫や花などを傷つけることな
く、環境を汚さない様に、いや、むしろ身近
な公園や里山のゴミや空き缶を拾って、自然
に恩返ししたいとも思っています。

また、皆様にお会いできるのが楽しみだワ
ン。
(代筆：芳川伸一)

AWACS (早期警戒機) に、ホークアイ

(Hawk Eye=タカの目)

VTOL (垂直離着陸機) に、ハリヤー

(Harrier=チュウヒ)

などがあり、ついで、今回のF-22ラプ
ター (猛禽) が米空軍に現れたのだ。

ちなみに、この「猛禽」は1機90億円もす
るが、「あらゆる戦闘機をしのぐ空中戦性能
と、正確な対地攻撃性能を持つ、21世紀の戦
術戦闘機」とのこと。さすが「猛禽」ではあ
る。

3月号の本講座第18回に誤植がありました
。最後から3行目の「Ser Harrier」とい
うのは、「Sea Harrier」の間違いです。

野鳥情報

羽生市の県立水族館裏の田んぼ ◇2月17日、タゲリ1羽(芳川伸一・リリィ)。
 久喜市菖蒲公園 ◇2月24日、ビンズイ6羽、オオジュリン約30羽、オオバン2組、カンムリカツブリ1羽、カワウ36羽。オオジュリンはアシを割って虫を食べ、オオバンはクルクル回りながら首を左右に振って水面上の虫を食べていた(芳川伸一・リリィ)。
 岩槻市の元荒川城北大橋上流 ◇2月25日、シラコバト約50羽。東岩槻駅近くの民家林をめぐらし、日の出前後に餌場へと散っていくようだ(中村榮男)。
 荒川村寺沢 ◇3月1日、ミソサザイ1羽。尾を立ててさえずっていた(後藤康夫・喜久子)。
 川越市の初雁橋付近の入間川 ◇3月2日、ノスリ1羽(上野英士郎)。
 浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森 ◇3月4日・12日、アカゲラ、アオゲラ、ミヤマホオジロ、タシギ(陶山和良)。
 庄和町役場 ◇3月4・5日、キレンジャク8羽、ヒレンジャク1羽。池のほとりの柿の木の新芽を食べていた(櫻庭 勇)。
 浦和市の白幡沼 ◇3月7日、クロジ1羽。遊歩道のシダレウメの木のとっぺんでグゼっていた(海老原教子)。
 嵐山町の市野川 ◇3月8日、カワセミ3羽(後藤康夫・喜久子)。
 嵐山町役場裏山 ◇3月8日、ウグイスのさえずりを聞く(後藤康夫・喜久子)。
 川本町の荒川、明戸堰上流 ◇3月9日、キリアイ7羽(後藤康夫・喜久子)。
 浦和市辻 ◇3月9日、自宅ベランダの方より「チリチリチリチリ」と聞き慣れない声。

ベランダに出て声の方を見ると、ハンノキの上にキレンジャク12羽。そばにいた妻にも声をかけて、二人で確認(倉林宗太郎)。
 JR吹上駅 ◇3月10日、イワツバメ2羽(成澤とよ子)。
 戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷 ◇3月15日、コミミズク1羽(高橋達也)。
 岩槻市の槻の森公園 ◇3月18日、ツバメ1羽。初認(中村榮男)。
 戸田市の戸田公園 ◇3月19日、ツバメ1羽。初認(高橋達也)。
 小川町青山の西光寺付近 ◇3月22日、ツバメ1羽(後藤康夫・喜久子)。
 小川町の槻川割谷橋 ◇3月22日、ヤマセミ♂♀各1羽。現在巣作り進行中で、交互に盛んに巣穴へ出入りしていた(後藤康夫・喜久子)。
 大宮市掘の内 ◇3月22日、チョウゲンボウ1羽。雨上がりのベランダに出ると、突然背後から飛来し、50メートルほど先の電線にとまる。すぐに飛び立ち、自宅上空で旋回、ホバリングした後、飛び去る(浅見徹)。
 入間市 ◇3月22日、自宅付近の小川でトラツグミ1羽。かなり警戒している様子だった(工藤雅彦)。
 鴻巣市箕田の武蔵水路 ◇3月23日、ツバメ1羽(倉林宗太郎)。
 戸田市道満の彩湖 ◇3月28日、アトリ7羽(高橋達也)。
 浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地 ◇4月5日、ムナグロ9羽、トラツグミ2羽、アカハラ1羽さえずり、ヒレンジャク1羽、アオジ、シメ多数(海老原美夫)。
 ※「野鳥情報」欄の書き方を変えてみました。いかがでしょうか。ご意見お待ちします。

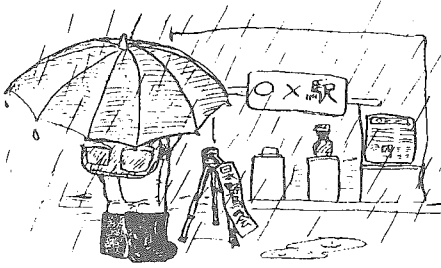
表紙の写真

ビンズイ (セキレイ科)

5月の連休になると、島にわたりたくなくて体がうずうずしてきます。今年も舩倉島に行ってきました。島に行くと、どんな鳥でも珍鳥に見えてきます。

ヨーロッパビンズイ? セジロタヒバリ? ぐるっと後ろに回って見たりしましたが、やっぱりどう見てもただのビンズイでした。
 菱沼一充(板橋区)

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

熊谷市 大麻生元柳探鳥会

期日：6月8日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、小池、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本

見どころ：いま鳥達は子育ての時期です。日頃うるさいようなオオヨシキリの声も探鳥会では楽しく聞こえます。何かすばらしい出会いを期待して、小鳥のさえずりを聞きながら歩きましょう。そろそろ雨の多くなる季節に入りますので、雨対策もお忘れなく。

坂戸市 高麗川探鳥会

期日：6月15日(日)

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:12発、坂戸にて越生線乗り換え8:41発に乗車、川角8:50着

担当：高草木、藤掛、石井(幸)、青山、久保田、志村

見どころ：暦の上では梅雨に入りました。親鳥たちは子育てに追われています。そんな様子をそっと覗いてみたいと思いませんか？ カッコウ、オオヨシキリ、気まぐれカワセミに会えて、水辺でウグイスが鳴いたらラッキーです。お出かけのときには雨具を忘れずに！

北川辺町 渡良瀬遊水地探鳥会

期日：6月8日(日)

集合：午前9時15分 東武日光線柳生駅前、または午前9時30分中央エントランス駐車場

交通：JR宇都宮線大宮8:01発→栗橋8:30着、東武日光線乗り換え栗橋8:58発→柳生9:08着

担当：新堂、中島(康)、松井、内田、入山、篠原(五)

見どころ：緑連なるアシ原でオオヨシキリ、コヨシキリ、セッカの大合唱を聞きましょう。托卵をねらうカッコウとオオヨシキリの攻防もみものです。中央ゲート経由で旧谷中村跡まで歩きます。

■探鳥会での履物は

平坦地の道路を歩く探鳥会でしたら、スニーカーでも大丈夫です。

でも、奥日光のように木道を歩いたり、三峰のように高低差のある山道を歩いたりする時は、意外とスニーカーは危険です。特に雨で少しでも濡れていたりすると、大変滑りやすくなります。骨折事故も起きています。

靴底の切れ込みが深くて、滑りにくくなっているトレッキングシューズなどをおすすめしますが、長年履き慣れたトレッキングシューズの場合は、時々靴底の点検も。思い掛けなくすり減っていることもあります。

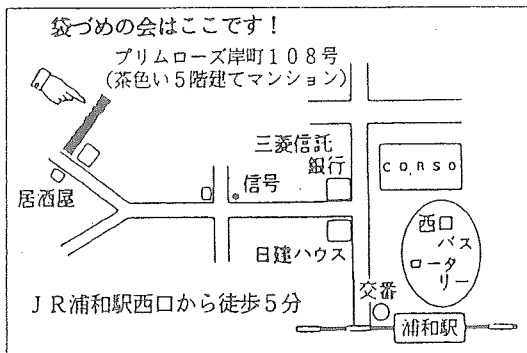
足元から安全な探鳥会を!! (海)

浦和市 緑地探鳥会

期日：6月15日（日）
 集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前
 後援：浦和市立郷土博物館
 担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、笠原、伊藤、若林、倉林、岡部、兼元、森見
 見どころ：今年は季節の移り変わりが早いようだが、いつもの様にカルガモ親子の行列が見られるだろうか。緑一面の見沼たんぼの風を頬に感じて、カッコウやオオヨシキリの声を聞いてみよう。そう、去年は橋の上からバンの子育てがよく見られたね！

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月28日（土）午後1時～2時ごろ
 会場：支部事務局108号室
 案内：今年になって初めてこの案内を乗せることができました。行事が多くて中々内容を紹介できなかったのです。支部報『しらこぼと』を封筒に入れるだけの簡単な仕事ですが、探鳥会行事と共に支部活動を支える車の両輪とも言うべき重要な奉仕活動なのです。まだ事務局にお見えになった事のない方、梅雨の日の一時をおしゃべりも兼ねて一度覗いてみては如何がですか。きっと気晴らしになると思いますよ。是非いらして下さい。



支部総会の案内

日時：6月29日（日）
 午後1時 受付開始
 午後1時30分～2時30分 記念講演
 午後2時30分～4時30分 総会
 会場：浦和市民会館6階集会室
 交通：浦和駅西口から県庁通りを西進。埼玉会館の角を右折。玉蔵院境内を通り抜けた先の左側。徒歩7～8分。
 記念講演：「『野鳥』誌作りの現場から」
 講師：鈴木寛（本部編集局編集担当者）
 総会議題：平成8年度事業報告・決算報告
 平成9年度事業計画案・予算案
 平成9年度役員の選出
 参加資格：支部会員に限りません。支部会員であれば、どなたでも参加できます。支部規約に基づく大切な総会です。お集まりください。

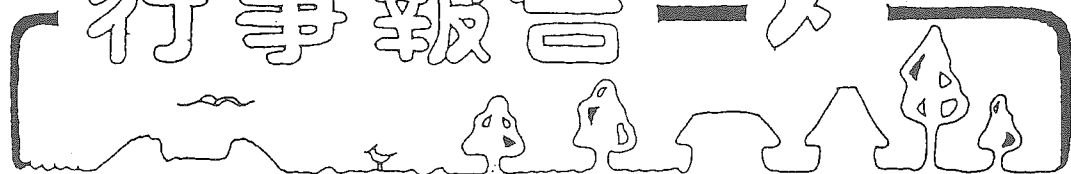
上尾市 八枝神社探鳥会（夕方）

期日：7月5日（土）
 集合：午後6時 上尾市平方八枝神社境内
 交通：JR大宮駅西口 東武バス8番乗り場より17時23分発平方行きにて終点下車。
 担当：中島（康）、丹、阿久沢、浅見（健）
 見どころ：梅雨明け前の蒸し暑い日の夕方、神社の大ケヤキの下で夕涼み？ は如何ですか。毎年の事ですっかりおなじみですがお出かけください。
 注意：蚊の多いところですので、防虫スプレーがあると便利です。



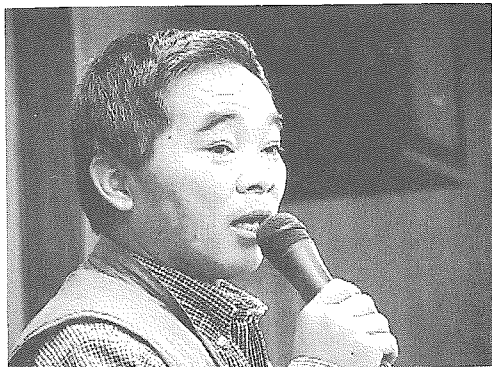
（富士鷹なすび）

行事報告



12月22日(日) 年末講演会
参加: 84人 講師: 叶内拓哉

恒例の年末講演会はカメラマンの叶内氏を講師としてお迎えして開催されました。第1部は海老原事務局長制作のビデオで1年間の活動を振り返りました。第2部の叶内氏の講演は、ロシアに取材に行った時のヒメクビワカモメの話を中心に、写真撮影について、スライドを使って色々参考になる話をしてくださいました。当日叶内氏は風邪のため熱があったそうですが、どうも有難うございました。(中島康夫)



1月11日(土) 久喜市 昭和池
参加: 27人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ ミコアイサ チョウゲンボウ オオバン セグロカモメ キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (35種) 年々カモの飛来数が減っている昭和池ですが、お目当てのトモエガモだけは毎年10数羽は渡ってきている池を1周しながら探鳥し、トモエガモやミコアイサ、カンムリカイツブリを全員見ることができた。また、ここでは

珍しいミミカイツブリも見られた。(中島康夫)

1月25~28日(土~日) 宮城県 伊豆沼
参加: 25人 天気: 曇、晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガン ヒシクイ オオハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ オジロワシ ケアシノスリ ノスリ チュウヒ ハヤブサ キジ クイナ オオバン タゲリ タシギ キジバト カワセミ アカゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) 瀬峰駅においたら雪。タクシーで蕪栗沼に着くと、激しく降ってきたが15分もたつと晴れ間が見えてきた。ケアシノスリやチュウヒ、ノスリが相次いで飛んでくれた。次の日は快晴。オジロワシ3羽が伊豆沼の上空に現われた。1万羽近いマガンの飛び立ちや帰着する姿も十分にみることができ、皆さん大満足の様子。(中島康夫)

2月18日(日) 深谷市 仙元山
雨のため中止。

2月16日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
雨のため中止。

2月16日(日) 浦和市 三室地区
雨のため中止。

2月22日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 14人

荒木恒夫、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、篠原東彦、島田恵司、中村榮男、野田政子、原口勝見、藤掛保司、藤野富代、森力、

安原久子

2月23日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 59人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ トビ ノスリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソシメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 集合場所が参加者でござった返した。お目当ては〇〇〇ミ。玉淀河原で、小さい方の〇〇セミは何回も見ることができた。でも本命の大きい方の〇マセミは出ずじまいでがっかり。ヤ〇セミくん、来年はたのむよ!でも途中でウソをじっくり全員で見ることができたので良かったとしましょう。というわけで、今回の主役はウソに決定。(小池一男)

2月23日(日) 東松山市 物見山

参加: 39人 天気: 快晴

トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソシメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 風があるせいか朝から快晴。林の中をゆっくり歩いて行くと、ルリビタキ♀が飛び出し、全員で観察する。あまり種類は多くなかったけど、タカも3種しっかり見られたし、内容的には濃かったと自画自賛。観音様境内の春めく風情に心がなごむ。(榎本秀和)

2月23日(日) 茨城県 菅生沼

参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ オオタカ ノスリ キジ バン タゲリ オオハシシギ タシギ キジバト アカゲラ モズ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン

カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 菅生沼そばの高台に茨城県立自然博物館の建設工事が行われていたため久しぶりの探鳥会。毎年渡ってくる200羽以上のコハクチョウ、トモエガモ、3年続けて越冬しているオオハシシギなどを間近で観察できた。沼の中央に木の歩道橋ができ、沼の中からの観察ができた。ただし、環境などには問題点も多いのではないだろうか。(中島康夫)

3月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 24人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ イソシギ キジバト アオゲラ アカゲラ ヒバリ ヒヨドリ モズ キレンジャク ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) スタート前、既に始まっていた日食をKリーダーが配ってくれた黒いシートで観察。スタート早々ジョウビタキのメスを参加の小学生君が発見。その後上空をハヤブサ、チョウゲンボウが舞う。更に道沿いの雑木林に入ったところで、何と御当地初めてのキレンジャクの出現。更に更にアオゲラ、アカゲラのランデブー。スコープの視野に2羽が入り、じっくり観察させてくれ、大感激。(和田康男)

3月9日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 30人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ バイタカ コジュケイ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 部分日食と探鳥会とが重なった珍しい機会に当たった。リーダーが畳り板を用意してくれて、鳥を見たり、天体ショーを見たりの楽しい探鳥会になった。途中、当地では珍しいハイタカが出現した。大宮共立病院前で見事な紅梅を観賞し、バードソンの応援と募金の協力をお願いして探鳥会を終了した。(工藤洋三)

連 絡 申 長

●バードソン特別チームに参加

5月11日(日)のバードソンに、今年も黒田長久会長が、特別チーム「黒田会長カラス組」を率いて参加。午前10時から正午まで明治神宮で開かれた探鳥会形式のバードソンに、当支部からは松井昭吾・昭子支部長夫妻らがかけつけました。

●事業部長就任

長らく空席だった事業部長に福井恒人幹事が就任しました。これに菱沼一充幹事が副部長として協力し、事業部の立て直しを図ります。

●イベントに協力ボランティア

5月3日(土)熊谷市大麻生野鳥の森付近を会場として開催されたアズ熊谷開業10周年記念ファミリーウォークには500~600人が集まり、当支部も多くのボランティアの協力で普及活動を展開しました。

「バードウォッチング体験」は、コース途中で探鳥指導。ボランティア：新井巖、榎本秀和、倉崎哲郎、松本生男、島田恵司、菱沼一充、菱沼洋子、藤掛保司、和田康男。

「バードウォッチング教室」は、海老原美夫が撮影した野鳥ビデオを映写しながらの室内講座。

「野鳥写真展」はアズ熊谷の4階で、5日までの3日間、かつての野鳥写真展入選作品のパネルなどを展示して開催。展示作業や販売物担当などのボランティア：海老原教子、海老原美夫、倉林宗太郎、佐久間博文、丹茂子、中村榮男、根岸典子、根岸文夫、長谷部謙二、福井恒人、和田康男。

皆さんご苦労様でした。(敬称略・50音順)

●事務局にも協力ボランティア

1年間の支部会計の入力に兼次須磨子さん、事業部の帳簿整理には丹茂子さんがお手伝い。ありがとうございました。

●テレビでの広報活動

4月21日(月)午後5時から放送されたテレビ埼玉「常盤6丁目情報局」に松井昭吾支部長・桜庭勇幹事・山岡百合子会員の3名が出演して、浦和市秋ヶ瀬でのバードウォッチングについて解説しました。

5月13日(火)午後1時からの同局「午後はpipopa」という番組では、松井昭吾支部長と桜庭勇幹事が、当支部の活動について語りました。

海老原美夫副支部長が撮影した野鳥のビデオ映像を紹介しながら支部の探鳥会案内をする同局の番組「野鳥」(毎週火・水曜のお昼12時20分ころから5~6分間)は3年以上続き、通算150回目を迎えています。

●6月の事務局 土曜と日曜の予定

7日(土)普及部会議。

14日(土)編集会議、研究部会議。

15日(日)役員会議。

21日(土)校正作業。

28日(土)袋づめの会。

●会員数は

5月1日現在2,828人です。

活 動 報 告

4月16日(水)アズファミリーウォーク企画打ち合わせ(事務局)。

4月19日(土)5月号校正作業(海老原美夫、喜多峻次、桜庭勇)。

4月20日(日)役員会議(司会：榎本秀和、事業部長の選出・平成9年度役員推薦・その他)。

編 集 後 記

さぼっていた訳ではないけど、FAX送稿だけではなく、6ヵ月振りに事務局に足を運んで、編集の手伝い。部屋に集まった人たちと話をしていると、先月会ったばかりの様な気持ちで、事なく終了。(内藤義雄)

『しらこぼと』1997年6月号(第158号)

定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130

印刷 関東図書株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)